

## 福島第1原発の事故処理に関する日本科学者会議からの2つの提言

日本科学者会議は、福島第1原発の事故処理に関し、現在も重要な課題となっている、「原発汚染水問題」と「除染」について、それぞれの検討プロジェクトチームによる議論の結果を、緊急提言としてまとめ、2014年2月11日に公表しました。この内容が、日本科学者会議が編集・発行し、本の泉社から発売されています『日本の科学者』（2014年5月号、Vol.49, No.5, 通巻556号、45 - 49ページ）に掲載されています。

日本科学者会議原発汚染水問題プロジェクトチームによる、「原発汚染水問題」にかかわる緊急提言と、日本科学者会議除染問題検討チームによる、「除染」にかかわる提言の2つです。これらの重要課題に対し、応急的な処置ではなく、それぞれ抜本的な方向での対策の必要性を示すものとなっています。現状の問題点の把握にも、さらなる対応を考えると、ヒントにつながるものとなっています。

「原発汚染水問題」にかかわる緊急提言では、福島第1原発の敷地における地盤の把握と、そのための地質調査の必要性が強調され、それにもとづく汚染水のモニタリングと、地下水の流動の解析を求めています。これらの厳密な事実によって対応を検討しなければ、十分な対策はとれず、効果の点で問題があると、これまでの問題点を指摘し、それらを改善し、有効な対策に結び付けるよう提言しています。実際、この提言が発表されて以降の経過を見ても、これらのことがうなずけるのではないのでしょうか。

「除染」にかかわる提言では、除染自体が「目的」ではなく、あくまでも被曝低減に向けた「手段」であるとの見地から、除染に関する社会的合意の形成を強調し、生活再建との関係や、放射性廃棄物の管理、実施の主体としての、国の責任の明確化などについての議論を求めています。これらの論点が整理されない以上、除染についての合意は難しく、実効性の伴った対応がなされにくいと同時に、十分な実態の把握にもとづいた対策でないと効果が薄いと指摘されています。現状の理解にも役立つものとなっています。

なお、これらの提言は、日本科学者会議のホームページ[日本科学者会議 - The Japan Scientists' Association \(JSA\)](http://www.jsa.gr.jp)にも掲載されています。

「原発汚染水問題」にかかわる緊急提言 <http://www.jsa.gr.jp/03statement/20140211b.pdf>

「除染」にかかわる提言 <http://www.jsa.gr.jp/03statement/20140211a.pdf>